

1691年に創建された東光寺は、17世紀に日本に仏教の僧侶であり哲学者でもある隠元禅師によってもたらされた黄檗宗の禅宗寺院です。東光寺は1603年から1867年にかけて長州藩（現代の山口県）の藩主を務めた毛利氏によって1691年に建てられた。東光寺の敷地内には、寺院の裏の森の中に広大な墓地があり、奇数代の毛利氏の藩主が何百という石燈籠に囲まれ祀られている。また「重要文化財」に認定されているいくつかの建物も存在する。これらの建物は、中国の影響を受けた建築と職人技のユニークさを通して表現する精神性により、この地域で最も高く評価されている仏教寺院の1つとなっている。